

Nara National Museum

# 奈良国立博物館 だより

第 **46** 号

平成15年 7・8・9月



仏立像 マトゥラー出土 2世紀 マトゥラー博物館



釈迦菩薩坐像 ガンダーラ、サハリ・バハロール出土  
2-3世紀 ペシャーワル博物館

特別展

インド・マトゥラー彫刻展  
パキスタン・ガンダーラ彫刻展  
7月1日(火)～8月17日(日)  
東・西新館

親と子のギャラリー

弥勒如来にささげる  
～お経のタイムカプセル～  
9月2日(火)～10月5日(日)  
西新館北

特別陳列

達磨寺の美術  
9月2日(火)～10月5日(日)  
西新館南

平常展

仏教美術の名品  
7月1日(火)～  
本館・東新館



日本・インド国交樹立50周年記念特別展

# インド・マトウラー彫刻展

―仏像誕生の地から奈良へ―

◆会期 七月一日(火)～八月十七日(日)

◆会場 奈良国立博物館 東新館

◆主催 奈良国立博物館 NHK奈良放送局 NHKきんきメディアプラン

昨年(平成十四年)は、わが国とインドの間に国交が樹立されて五十周年にあたります。これを記念して、古代インド彫刻の名品展を開催いたします。インド中部のマトウラーは、パキスタン西部のガンダーラとともに、紀元一世紀頃に仏像が誕生した地として大変有名です。本展ではクシャーン時代(一―三世紀)の仏教彫刻を中心に、インド各地の博物館の藏品からよりすぐった逸品を展観し、躍動する肉体美のうちに、健康的な生命力がみなぎるマトウラー彫刻の魅力を、存



仏三尊像 アヒチャトラー出土 2世紀  
ニューデリー国立博物館



ストゥーパ奉獻板 マトウラー、カンカーリー・ティーラー出土  
1世紀 ラクナウ州立博物館

分に味わっていただきます。はるか遠いインドに花開いた仏教文化の遺産は、奈良時代を中心とした日本の仏教美術のうちに確かに息づいています。本展をとおして、仏像のふるさとであるかの地と奈良の、時空をこえた深いつながりを実感していただければ幸いです。この稀有な機会を、ぜひお見逃しなく。

日本・パキスタン国交樹立50周年記念特別展

# パキスタン・ガンダーラ彫刻展

―仏像誕生の地から奈良へ―

◆会期 七月一日(火)～八月十七日(日)

◆会場 奈良国立博物館 西新館

◆主催 奈良国立博物館 NHK奈良放送局 NHKきんきメディアプラン

昨年(平成十四年)は、わが国とパキスタンの間に国交が樹立されて五十周年にあたります。これを記念して、ガンダーラ彫刻の名品展を開催いたします。パキスタン西部のガンダーラで、ギリシア・ローマ美術と仏教美術の融合の上に仏像が誕生したのは、インドのマトウラーとほぼ同じ、紀元一世紀頃のことです。本展では、エキゾチックな風貌と流麗な衣の表現に、高貴な西方文化の薫りが漂うガンダーラ彫刻の魅力を堪能していただけます。海外初出陳の逸品も多く、東京国立



バーンチカとハリーティー坐像  
ガンダーラ、サハリ・バハロール出土  
2―3世紀 ペシャワール博物館

博物館の発掘調査によつて近年発見されたザールデリー遺跡の出土品が、初めて公開されることも大きな話題です。仏像のはるかな旅路に思いをはせながら、ガンダーラ美術の中に、形をかえつつもわが国にまで継承された数々の要素を発見していただければ幸いです。ぜひ奈良の地で、本展をご鑑賞下さい。



仏説法図 ガンダーラ、モハメッド・ナリ出土  
3―4世紀 ラホール博物館



## 親と子のギャラリー

# 弥勒如来にささげる「お経のタイムカプセル」

◆会期 九月二日(火)～十月五日(日)

◆会場 奈良国立博物館 西新館北

あなたには千年後、二千年後の人々に遺してあげたいものはありますか？大切なものを遺すとしたら、どのような工夫をしますか？

千年ほど前の平安時代、仏教を深く信じていた人々はもうすぐ仏教が廃れる世が来るのではないかと不安におびえていました。人々は、仏の教えが失われた暗黒の時代を末法と呼び、それが永承七年(一〇五二)に始まると考えていました。

その末法が千年続いた後、お釈迦さまが亡くなつてからちょうど五十六億七千万年後にあたる時に、厳しい修行を乗り越えて弥勒菩薩からパワーアップした弥勒如来というほとけさまが現れて、末法の世を終わらせ、人々を救つてくださるとかたく信じていました。

五十六億七千万年という現代の私達にとっても途方もない長い時間を当時の人々は確かに感じ、弥勒如来によつて仏の教えが復活したその時に備えていました。末法後の人々が困らないように、大切な仏の教えやお経をずっと遺してあげなければと、お経を経筒と呼ばれる容器に納め、仏教に関連するさまざまな品々とともに地



◎石製弥勒如来坐像 当館

中に埋め、タイムカプセルを作りました。

一つ一つの経塚や経塚からの出土品を見ていくと、地中に埋まっている長い間に朽ち果ててしまふことにならないようにと昔の人々がさまざまな工夫を凝らしていることがわかります。あの藤原道長の経塚遺品をはじめ、いろいろなタイムカプセルをみていくなかで、昔の人々の仏教を大切に思う気持ちと、後の時代の人々への思いやりの気持ちを感じてみましょう。

## 特別陳列

# 達磨寺の美術

◆会期 九月二日(火)～十月五日(日)

◆会場 奈良国立博物館 西新館南

達磨寺は奈良盆地の西部、奈良県北葛城郡王寺町に所在しています。王寺町は聖徳太子の建てた法隆寺のある斑鳩町に隣接しており、達磨寺の縁起にも聖徳太子が重要な役割を演じています。片岡山に遊行した聖徳太子が出会った飢者が実は達磨大師の化身であり、飢者を葬った塚(達磨塚)の上に仏堂を建立したのが当寺の草創であるというのです。

達磨寺の本堂は実際に古墳(達磨寺三号墳)、すなわち塚の上に立地しており、平安時代の末にはこの塚上に三重塔に似た廟があつたようです。鎌倉時代には禅宗寺院となつたらしく(いまでも臨済宗南禅寺派に属する)、十四世紀初頭には禅宗の進出に危機感をつのらせた興福寺によつて破壊されますが、まもなく再興をとげます。その後



千手観音坐像

戦国時代にも兵火にあいますが、近世初頭に再び復興されています。

達磨寺には千手観音・達磨大師・聖徳太子のいずれもほぼ等身大の三軀の尊像(うち二軀が重要文化財)が本尊として安置されています。このたび同寺の本堂が新たに建立されるにもない、これらの尊像を当館にお預かりいたしました。また達磨寺にはこれ以外にも、やはり重要文化財の仏涅槃図など、優れた文化財が伝わっています。今回、三軀のご本尊が当館に寄寓されたのを機会に、これら達磨寺伝来の美術をご紹介します。



◎達磨大師坐像

# 展 示 評

## 「外からみる奈良博」

日本の博物館は毎年、主要都市において文化のいろいろな面を取り上げ、大きな展示会を開催してきたが、以前から私は、日本のそうした博物館の能力を、学問的にも財政的にも評価し、感心もしてきた。この度の、奈良国立博物館で開催された「女性と仏教」のりとほえみ（平成十五年四月十五日～五月二十五日）は、私の見るところ、特筆されるべきもので、近年開催された展示会のうちでもとりわけ重要なものであり、日本の博物館の歴史において大きな転回点をなすものと思われる。

多くの国宝や重要文化財が見事にならべられ、それぞれの展示物にその意義と関連性がわかりやすく説明されているので、それだけでも重要である。さらに、展示物の豊富さにもびつくりする。開催期間中に展示物の入れ替えがあり、私は、二度も足を運んだ。

しかし、私は、今回の展示会が分水嶺的な性格をもったものであると同時に、日本における最も重要な展示会の一つであると考えているのはこのような理由だけではない。私の知るかぎり、これは、女性と仏教に関するテーマが、主要な博物館で真正面から、そして総合的に、しかも洞察力に満ちた方法で取り上げられた、日本初の展示会である。これを構想し、展示した西山厚・資料管理研究室長を初めとする奈良博の担当者、の努力は、実にすばらしい。惜しいのは、この展示会がヨーロッパやアメリカの博物館を巡回しないことである。

私は、彼の地で開催されるべき価値は充分にあると思う。



よく知られているように、日本の博物館は、著名な寺院（常に男僧の寺院）の宝物や著

## 奇跡のような贈り物 『女性と仏教』展を観て思う

コロンビア大学名誉教授  
中世日本研究所所長  
バーバラ・ルーシュ  
Barbara Ruch

名な高僧に関係する仏教美術の展示会を毎年開く。こうした展示会では、いつも仏教が男性の宗教であるかのように扱われている。男性の寺院が重要とされ、尼寺院はとるに足らない存在であり、もし女性が扱われる場合、男僧の女性観や女性について書き残したものに限られている。

しかし、この展示会では、仏教における女性の信仰が、歴史的な事実として納得のいくようなかたちでたくみに提示されている。古代の仏教受容期から江戸時代までの展示品のどれ一つを取っても、女性の声が直接聞こえてくるように感じられる。女性たちの熱心な信仰は、国分尼寺の出土品から中宮寺の天寿国繡帳、また伝香寺地蔵とその像内の比丘尼妙法等による願文、さらに日本に独特な図像学的な組合せからなる、いろいろな普賢十羅刹女図まで明瞭に見ることができ、この展示会を見ると、日本における仏教の発展において、女性たちが、尼僧として、寺院の創始者として、熱心な仏教徒であった皇后や中宮として、経文や仏像の制作注文者として、仏教指導者として、そして一般の熱心な信者として、広範囲にわたって重要な役割を演じてきたことが明らかに。

このほぼ完璧と思われる展示会の中で、唯一、残念に思われるのは、サブタイトルに使われている「ほえみ」という表現である。これは、展示会に足を運んだ多くの女性に対して、ジェンダー的差別の意識を植えつけたにちがいない。というのは、男性の目から見た仏教における理想の女性像を反映したものと思われるからである。日本における女性と仏教の長い歴史に見出される尼僧の生涯をたどってみると、「ほえみ」はキーワードとはいえない。たとえば、円照寺の開山、大通文智は、自らの手の皮膚を切り取り、それに経文を書きつけたし、さらに自らの血で写経もした。また了燃元総は、男僧から入寺の許可を得るために、自らの美しい顔を焼きこてで焼いた。この展示会に登場する女性の中でも「ほえみ」という言葉で描写できる人は誰もいないのではないだろうか。無外如大禅尼の場合にしても、この言葉とは無縁である。

二十余年前、いくつかの日本の学会で私は、尼僧や尼寺院や女性の仏教信者たちの研究が行われていない事実を指摘し、その必要性を訴えたが、無視されるのがその当時のパターンであった。その頃、そうした研究が

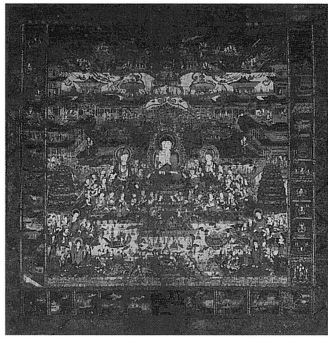
行われていない言い訳としてよく言われたことは、この研究テーマについての資料がほとんど存在しないということであった。今回の奈良博の展示会は、これらの言い訳がまったくの出鱈目だったことの、明白な証拠を提出したといえる。

生誕七百八十年に当たるこの年、初めて国立博物館において無外如大禅尼にかなりの展示スペースが与えられた。私はこの事実を、無学祖元の後継者であり、尼寺五山の筆頭、景愛寺の創始者でもあった大禅尼の重要性がやっと認められた証拠であると見なしている（この点において奈良博の元館長であった西川杏太郎氏が十三世紀に作られた彼女の見事な頂相彫刻を初めて紹介されたのは興味深い）。

今回の展示会は、長年の間、日本の仏教史のなかで女性が果たした役割を正當に評価しようとするわれわれ研究者にとつて、奇跡のような贈り物である。というのは、五年前、コロンビア大学の私が所長をつとめる中世日本研究所が創立三十周年を記念して「尼門跡寺院の秘宝」と題する初めての展示会をニューヨークで開催した時、このような催しが行われることは信じられなかったからである。本年は三十五周年を記念して、世界初の皇女尼僧による仏教美術作品の展示会を開催した。この「尼門跡と尼僧の美術」展は、京都の野村美術館で四月二十二日～五月十八日まで開かれ、ちょうど奈良博の展示会と時を同じくしたので、すばらしい相乗効果をもたらしたと思っている。ニューヨークの中世日本研究所は、これらの展示会を見ることができなかったヨーロッパやアメリカの研究者たちに展示会カタログを紹介し、購入できるように計画している。

尼僧や尼寺院、そして明治期以前の女性の立場から見た日本における仏教史の研究を無視し続けることはもうできなくなった。以前と異なり、もはや上記のような言い訳は通用しないからである。今回の展示会とすばらしい図録が提示した豊かな資料群に基づいて、今後、日本の大学が今まで軽視し続けてきた女性と仏教に関するテーマを教育のなかで取り上げることを、私は切に希望している。日本の仏教史は遠からず、書きかえられることになるのではないだろうか。

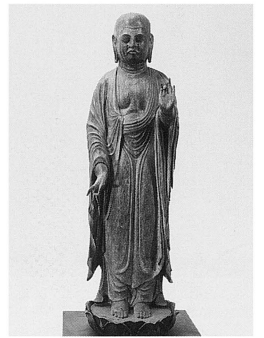




○当麻曼荼羅 西教寺



獅子 当館



○明星菩薩立像 弘仁寺

## 平常展

### 「仏教美術の名品」

本館

#### 【彫刻】

7/1

#### 第二室

##### 〈奈良時代の仏像〉

○脱活乾漆木造梵天立像、○脱活乾漆木造伝教脱菩薩立像(以上、秋篠寺)、

○銅造法華説相図(長谷寺)(7/29)、

○木造菩薩立像(金竜寺)(7/29)、

○銅造誕生釈迦仏立像(悟真寺)、銅造

誕生釈迦仏立像(当館)(7/29)、銅

像、銅造誕生釈迦仏立像(以上、個人)、

○脱活乾漆舍利弗立像(7/29)、

○脱活乾漆目犍連立像、○脱活乾漆緊那

羅立像(7/29)(以上、興福寺)、

銅造光背、○木造西大門勅額(以上、東

大寺)、○木心乾漆光背(聖林寺)、○木

心乾漆義淵僧正坐像(岡寺)

#### 第二室

##### 〈鎌倉時代の仏像〉

○木造阿弥陀如来立像(浄土寺)、木造

閻魔王坐像、木造泰山府君坐像(以上、

東大寺)、○木造法相六祖像のうち伝行

賀像(興福寺)、○木造重源上人坐像(浄

土寺)、○木造千手観音立像(妙法院)、

○木造十二面観音立像(元興寺)

#### 第三室

##### 〈平安時代前期の仏像〉

○木造虚空蔵菩薩半跏像(北僧坊)(7

/29)、○木造薬師如来立像(元興寺)、

木造如来立像(当館)、○木造吉祥天立

像(法明寺)、○木造聖観音立像(観心寺)、

○木造千手観音立像(園城寺)、○木造

十二面観音立像(勝林寺)、○木造十二面

観音立像(地福寺)、○木造観音菩薩立

像(セゾン現代美術館)

#### 第四・六室

##### 〈ガンダーラ・中国・朝鮮半島の彫刻〉

石造菩薩立像、ストゥッパ如来頭部、ストゥッ

コ如来坐像、ストゥッパ菩薩立像、ストゥッ

コアトラス像、石造貴婦人群像(以上、個

人)、石造浮彫仏伝図(当館)、銅造仏三

尊飾板、銅造誕生釈迦仏立像(以上、個

人)、銅造二仏並坐像(当館)、銅造菩薩

坐像、銅造力士立像、○木造諸尊仏龕(以

上、個人)、方形独尊坐像、方形阿

弥陀三尊、多宝塔、多宝塔、多宝塔、石造

如来頭部(雲岡)、石造菩薩頭部(鞆)、

石造仏五尊像、石造仏立像、石造仏浄

土碑像、○石造三尊仏龕(以上、個人)、

○石造三尊仏龕、○石造十二面観音立像

(以上、当館)、銅造如来立像(光明寺)、

銅造如来立像(当館)

#### 第七室

##### 〈檀像〉

○木造観音菩薩立像(本山寺)、○木造

弥勒仏坐像(東大寺)、○木造維摩居士

坐像(石山寺)(7/29)、○木造十一

面観音立像(海住山寺)

#### 第八室

##### 〈仮面〉〈小金銅仏〉

○木造伎楽面太孤父、○木造伎楽面・

醉胡王、○木造伎楽面・醉胡徒、○木造

伎楽面・治道、○木造伎楽面・迦楼羅、

○木造伎楽面・崑崙、○木造伎楽面・力

士(以上、東大寺)、銅造如来立像(当館)

(以下8点、7/29)、○銅造菩薩立像

(法起寺)、○銅造菩薩半跏像(神野寺)、

○銅造観音菩薩立像(観心寺)、○銅造

観音菩薩立像(法隆寺)、銅造菩薩立像、

銅造菩薩立像、銅造十二面観音立像仏

像型(以上、当館)

#### 第九室

##### 〈平安時代後期の仏像〉

木造大日如来坐像(西城戸町)、木造釈

迦如来坐像(法隆寺)、木造菩薩半跏像、

木造不動明王立像(以上、個人)、○木

造増長天立像(称名寺)、○木造増長天

立像(法明寺)、木造伝前鬼・後鬼坐像(西

南院)、○木造不動明王坐像、銅造釈迦

如来坐像(以上、園城寺)、木造広目天

#### 第十室

##### 〈鎌倉時代の仏像〉

木造地藏菩薩立像(萬福寺)(7/29)、

○木造地藏菩薩立像(東大寺)、○木造

馬頭観音立像(浄瑠璃寺)、○木造地藏

菩薩立像(長命寺)

#### 第十一室

##### 〈神仏習合の彫像〉

○銅造蔵王権現立像(大峰山寺)、木造

蔵王権現立像(当館)、○木造大將軍神

坐像(大將軍八神社)、木造大將軍神坐

像、木造伊豆山権現立像(以上、当館)、

木造男神坐像(観音寺)、○銅造山王十

社本地仏懸仏、○銅造熊野十二尊本地

仏懸仏(以上、当館)、銅造十二面観音三

尊懸仏(個人)

#### 第十二室

##### 〈獅子・狛犬〉

○木造獅子、木造獅子(7/29)(以上、

当館)、○木造狛犬(手向山八幡宮)、○

木造狛犬(当館)

#### 第十三室

##### 〈地藏菩薩とその周辺〉

○木造明星菩薩立像(弘仁寺)(以下10

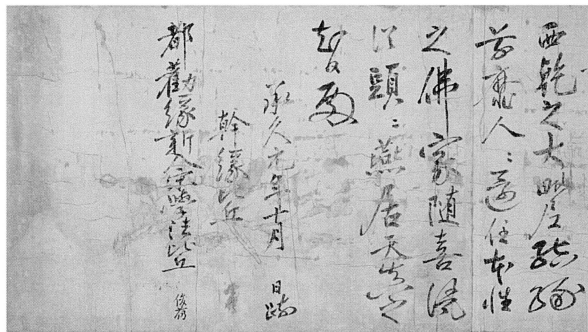
点、7/29)、○木造龍猛菩薩立像(泰

雲院)、○木造地藏菩薩立像(大福寺)、

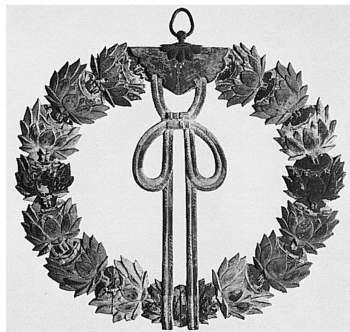
木造地藏菩薩立像(新薬師寺)、○木造

地藏菩薩立像(称名寺)、○木造地藏菩





●泉涌寺勸縁疏(泉涌寺)



◎木製華鬘 霊山寺



◎不動明王二童子像 瑠璃寺

木造龍樹菩薩坐像(以上、当館)、木造地藏菩薩立像(長谷寺)、木造地藏菩薩立像(十市町自治会)

【絵画】 9/2~10/5

◎釈迦三尊像(頼久寺)、◎阿弥陀来迎図(宝厳寺)、◎普賢延命像(当館)、◎地藏菩薩像(地藏院)、◎十二面観音像(金心寺)、◎白衣観音像(約翁徳俊賛)(当館)、馬頭観音像(西大寺)、愛染明王像(当館)、◎不動明王二童子像(瑠璃寺)、◎不動明王八大童子像(当館)、◎興正菩薩像(新大仏寺)、◎忍性菩薩像(大福田寺)、◎明空法師像(当館)、真宗八高僧像(瀧上寺)、◎大道一以像、一休宗純像(以上、当館)

特集展示「当麻曼荼羅をめぐる」

◎当麻曼荼羅(西教寺)、印紙当麻曼荼羅(阿弥陀如来像(念仏院)、◎当麻曼荼羅縁起、◎当麻寺縁起絵巻(以上、当麻寺)、当麻曼荼羅科註(浄橋寺)、善恵上人絵(浄橋寺)、復元模造当麻曼荼羅厨子軒先板(当館)

【書跡】 9/2~10/5

◎誓度院規式(興国寺)、◎福州温州台州求法目錄、◎太政官給公驗牒(先本)(以上、園城寺)、◎慈覚大師伝(三千院)、

●泉涌寺勸縁疏(泉涌寺)、◎大福田寺勸進状(大福田寺)、◎大般若経(長屋王願経(見性庵)、大智度論卷第六十六(当館)、大般若経(東明寺)、◎大般若経(魚養経)(葉師寺)、法華経卷第二(当館)、◎一字蓮台法華経(龍興寺)、◎一字宝塔法華経、道神足無極變化経卷下(神護寺経)、東大寺八幡経、大般若経卷第四百二(源蒙筆経)、毘尼母経卷第五(足利尊氏願経)、版本大般若経卷第三百六十五(以上、当館)

【工芸】 9/2~10/5

●金銅透彫舍利容器(西大寺)、◎金銅火焰宝珠形舍利容器(海龍王寺)、◎金銅宝相華唐草文透彫経筒(万徳寺)、金銅宝相華唐草文経筒(施福寺)、◎孔雀文戱金経箱(広島・浄土寺)、◎鳳凰文戱金経箱(当館)、◎金銅透彫華鬘、◎金銅幡頭(以上、金色院)、◎黒漆机(高山寺)、◎金銅種子華鬘(当館)、◎木製華鬘(霊山寺)、菊牡丹文彩色華鬘、金銅尾長鳥文透彫華鬘(以上、当館)、金銅輪宝羯磨文透彫幡(個人)、王子形水瓶および承盤、王子形水瓶、仙蓋形水瓶、布薩形水瓶、◎鉄鈿燈籠、燭台(以上、当館)、金銅柄香炉(高山寺)、塔鏡形合子(当館)、◎金銅宝相華文透彫華籠および桶(神照寺)、◎紙胎漆塗彩絵華籠

および桶、◎黒漆蒔絵戒体箱(以上、万徳寺)、◎銅鏡(円福寺、古式三鈷杵(当館)、◎金銅密教法具(厳島神社)、金銅鬼面独鈷杵(能満院)、金銅三鈷杵(松尾寺)、金銅五鈷杵(施福寺)、両界壇金銅五瓶(持福寺)、◎草花文磬(慈眼寺)、孔雀文磬(当館)、蓮華形磬(慈眼寺)、雲板(浄智院)、◎五獅子如意(東大寺)、◎刺繍両界曼荼羅(太山寺)、木造聖観音懸仏(当館)

親と子のギャラリー 西新館北

「弥勒如来にささげる  
お経のタイムカプセル」

9/2~10/5

《主な出陳品》

●藤原道長経塚金銅経筒・◎藤原道長願経(奈良・金峯山経塚出土)(金峯神社)、◎那智経塚出土品、◎三重・小町塚経塚出土品(以上、東京国立博物館)、◎石製弥勒如来坐像(長崎・鉢形峰経塚出土)、銅製経筒(天治二年銘)、陶製外筒(和歌山・粉河経塚出土)、◎銅経筒、滑石外筒(保延七年銘)、◎金銅宝幢形経筒、◎銅板経(大分・長安寺出土)、青石経(愛媛・大日堂経塚出土)、泥塔経(鳥取・智積寺出土)(以上、当館)、滑石経(個人)

特別陳列

「達磨寺の美術」

9/2~10/5

西新館南

◎木造聖徳太子坐像(鎌倉時代・建治三年・一二七七)院恵院道作、◎木造千手観音坐像(南北朝時代)、◎木造達磨大師坐像(鎌倉時代)、◎絹本着色仏涅槃図(平安時代)、絹本着色十六善神像(室町時代)、絹本着色観音菩薩像(室町時代)、◎備前大甕(室町時代)、◎青磁香炉(元・明時代)

平常展 本館第14・15室

坂本コレクション「中国古代青銅器」

爵尊鼎など殷周期のものを中心に様々な器種を二四〇点展示しています。

特別出陳

本館

●薬師如来立像(唐招提寺金堂)

●Ⅱ国宝、◎Ⅱ重要文化財

出陳作品は都合により一部変更する場合があります。



ニューヨークでの仏教美術展

今春四月九日から六月二日まで、アメリカニューヨークのマンハッタンにあるジャパソンサエティーギャラリーで「Transmitting the Forms of Divinity : Early Buddhist Art from Korea and Japan」（邦題：日韓初期仏教美術展）と題する展覧会が開催された。奈良国立博物館は主催六機関のひとつとしてこれに参画し、作品の選択・出品交渉・梱包・輸送・展示やカタログ原稿の分担執筆といった展覧会の主要な業務を、韓国の国立慶州博物館とともに担当した。具体的には韓国の作品に関しては慶州博が、日本の作品に関しては当館が責任をもつた。この展覧会を実施した。当館と慶州博とは学術交流をおこなっており、毎年互いに研究員を受け入れる研修制度があるなど行き来は多く、ほとんどの学芸スタッフは面識があり、同じ席で酒を酌み交わす機会も少なくない。外国との合同チームとしてはこれ以上ない理想的な組み合わせであったと思う。

とはいえ、受入館はいうまでもなくアメリカの機関であるから、ミート

インクの席上も展示作業中の会場にも三方国語が飛び交うわけであり、言葉の壁にくわえて仕事を進めるうえでの習慣ないし方針のちがい（それは文化的伝統のちがいからくる主義・主張のちがいでもあったと思う）があり、衝突が皆無であったとはいえない。ただ、それはよりよい展覧会にしようとする各人がそれぞれの立場でつとめた結果であって、このようなプロジェクトにはつきものと考えている。

展示作品は三月中旬に二便にわたって輸送したのだが、アメリカ到着後、日を隔てずしてイラクにおける戦争が始まり、このことへの対応をめぐって、ジャパソンサエティーと慶州博、当館との間で協議が繰り返された。アメリカ国内では、反戦デモがあいついだといえ一般市民の間に危機感はない。薄く、九・一一の悲劇のあったニューヨーク市内における展覧会開催を危ぶむ日本側の意識がなかなか伝わらない感があった。このような時期であるからこそ逆に文化的事業の意義を認めるべきだという主張はありえたが、一方で、戦争に踏み切った国で仏教尊像を公開することを宗教者として承服できないという出品者からのご意見も理解できた。結果、わが国からの一部の作品にはキャプションに所蔵者自身の戦争反対のメッセージを付することとなったのである。



オープンングセレモニーは二日間に行われ、国連ビル内のダイニングルームを借り切ったパーティーは大盛会であった。時期が時期だけに、また場所が場所だけに、開催にこぎつけたことについては、担当者のひとりとして感無量であった。ただ、この文章を書いている現在、実はまだ展覧会は開催中であり、当館のスタッフもニューヨークに滞在して日々作品の状態のチェックにあたっている。展示作品は日本と韓国だけではなく、広く人類すべての貴重な遺産である。展覧会が閉会し、作品が全て所蔵者のもとに無事返還されてはじめて安心できるわけであり、それまでは三方国合同の仕事がつづく。おそらくはまた再び真剣さゆえの衝突もあるだろう。

（岩田 茂樹）

日本名宝展延期のお知らせ

中国・北京市の中国国家博物館において、今春開催する予定でした「日本名宝展」（中国名「扶桑之旅—日本文物精品展—」（文化庁、奈良国立博物館、国際交流基金、中国国家博物館主催）は、重症急性呼吸器症候群（SARS）のため次年度に延期となりました。

●公開講座●

7月13日(日)

「生命力への賛歌－マトゥラー彫刻」

肥塚 隆（大阪大学総合学術博物館長）

7月20日(日)

「東西文明の出会い－パキスタン・ガンダーラ美術」

宮治 昭（名古屋大学大学院文学研究科教授）

※時間：13:30～15:00

会場：講堂

定員：200名

聴講無料

●ギャラリートーク●

7月 9日(水) 「伎楽面の彩色」

梶谷亮治(学芸課長)

7月30日(水) 「マトゥラーの彫刻」

稲本泰生(教育室長)

8月13日(水) 「ガンダーラの彫刻」

稲本泰生(教育室長)

9月10日(水) 「お経のタイムカプセル～経塚～」

岩戸晶子(研究員)

※時間：14:00～

会場：展示室

入館者聴講自由

●親と子の文化財教室 「平安時代の歴史と美術」 受講者募集●

第3回 7月12日(土) 「平安時代の和絵」

第4回 8月 9日(土) 「平安時代の仏画」

第5回 9月13日(土) 「経塚」

※小学5・6年生、中学生と保護者を対象にした教室です。 ※はがきまたはFAXで、「親と子の文化財教室参加希望」と明記の上、住所・氏名・学校名・学年・電話番号・同伴する保護者の氏名・参加希望の回(何回でも可)を記入して、当館教育室までお申し込みください。

※参加費は無料ですが、現地見学では実費が必要です。 ※時間：10:00～12:00 ※会場：現地見学以外は当館講堂

※定員：各回200名(先着順)

●展覧会日程●

	7 月	8 月	9 月
本 館	平常展(彫刻・青銅器)		
西 新 館	特別展(共催展)「パキスタン・ガンダーラ彫刻展」(7/1～8/17)		平常展(絵画・書跡・工芸)(9/2～10/5) 特別陳列「達磨寺の美術」(9/2～10/5) 親と子のギャラリー「弥勒如来にささげる」(9/2～10/5)
東 新 館	特別展(共催展)「インド・マトゥラー彫刻展」(7/1～8/17)		



## 展示品の 見どころ

### ラクシュミー立像

マトゥラー、ジャマールブル出土、二世紀

ニューデリー国立博物館  
(インド・マトゥラー彫刻展、作品番号20)

仏塔などを飾っていたとみられる柱型の彫刻で、水瓶をかたどった柱礎からのびる蓮華上に立つ女神ラクシュミーの姿をあらわし、背面には全面に蓮華が刻まれる。はちきれんばかりの豊かさを強調した女神の肉身と、活力にみちた蓮（豊饒・多産のシンボル）の表現がみごとに一体化しており、古代インド彫刻ならではのエネルギーあふれる造形を堪能できる。ラクシュミーは美と幸福の女神で、西洋のヴィーナスとしばしば比較される。インドでは太古の昔から信仰をあつめ、仏教ではのちに吉祥天として、またヒンドゥー教では最高神ヴィシュヌの妻として、大いに親しまれるに至った。



### 仏伝「帝釈窟説法」

ガンダーラ、マーマーネ・デリー出土、三世紀

ベシャーワル博物館（パキスタン・ガンダーラ彫刻展、作品番号27）

ガンダーラでは釈迦の一代記（仏伝）や前世物語（本生譚）に取材した彫刻が大量に制作された。本品は東インド、ラージャグリハ（王舎城）東北の山中の「帝釈窟」で坐禅を行っていた釈迦のもとを訪れた神々の王インドラ（帝釈天）が、仏教の根本真理を聴いて歓喜し、釈迦に帰依したという説話を表現している。山中の石窟で瞑想する釈迦の姿がひととき大きくあらわされ、異国風の高貴な顔立ちと流麗な衣文表現が非常に印象的である。様々な人物や動物を配した周囲の情景描写もすばらしく、数あるガンダーラの説話浮彫の中でも、屈指の完成度を誇る名品である。



■開館時間 9時30分～17時（毎週金曜日は19時まで）  
※いずれも入館は閉館の30分前まで

■休館日 月曜日  
（ただし7月21日、8月11日は開館、7月22日（火）休館）

■観覧料金

平常展	一般	大人	大学・高校生	
			大人	大学・高校生
			420円	130円
	団体		210円	70円
特別展	一般	大人	大学・高校生	中学・小学生
			大人	大学・高校生
			1,300円	900円
			400円	
	団体		950円	500円
			200円	

\* 団体は責任者が引率する20名以上。

\* 親と子のギャラリー、特別陳列は平常展料金でご覧いただけます。



〔交通案内〕近鉄奈良駅から徒歩15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅からバスで「氷室神社・国立博物館」下車すぐ

『奈良国立博物館だより』は、1・4・7・10月に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し、返信用封筒（90円切手貼付、宛名明記）を同封して、当館の企画室にお申し込みください。



奈良国立博物館  
Nara National Museum